

経済 TOPICS

No. 244

(2025 年 6 月 16 日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 生産が横這い圏内の動きのなか、輸出が米国の通商政策の影響によりやや振れの大きい展開となっているものの、設備投資や個人消費が緩やかな増加傾向にあることから、全体としてはごく緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価(除く生鮮食品)は、米価を主因とする食料価格の上昇により、前年比プラス幅が拡大している。この間、米国の通商政策の動向のほか、海外での軍事紛争の拡大など、世界経済の先行き不透明感が強い状態が続いている。

米国 … 住宅販売の弱い状態は続いているものの、生産が横這い圏内で推移し、設備投資と個人消費が堅調に推移していることから、全体としては堅調な成長を維持している。この間、雇用はタイトな状態が続いている。消費者物価は、横這い圏内の動きとなっている。

(参考) 日米の物価動向

〈日本〉 エネルギーやサービス価格の前年比プラス幅が横這い圏内のなか、食料価格が米価を主因に上昇傾向にあることから、前年比プラス幅が拡大している。この間、食料価格の上昇により、エンゲル係数(家計の消費支出に占める食費の割合)の上昇傾向が続いている。

〈米国〉 エネルギー、食料、商品価格が鎮静化しているなか、サービス価格の前年比プラス幅が横這いの動きとなったことから、全体としても横這い圏内の動きとなっている。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング